



入強

三
中
淡
清
涼
室
藏
山
緣

不
出
三
中
淡
清
涼
室
藏
山
緣



13
1626
4





特 へ 18
1626
4

小夜尾巻之才八

才七 一 夜盜採之事

才七 二 鑿物具

才七 三 馬拵之車

才七 四 三帝諸軍より御對面之車

才七 八 軍勢賊之車

小夜尾巻之才八

才七 一 軟盜拵

中筋とうけぬるり。究竟のゆと人等。まこと

と引連のそと。隆統寺へんせ。あつるぬと。九

はふれくそ。いりの國の覺淨禪門。どるぬら。言

見才。和泉國の下。た。た。命。山。國。三。條。の。右。富。門。

壬生。小。猿。遠。江。國。の。名。卒。六。越。前。國。あ。る。ふ。津。乃。

松。乃。之。由。乃。九。節。伊。賀。國。の。い。さ。こ。う。ら。う。う。林。風。氣。

尾。張。玉。よ。う。う。ら。ん。全。次。榎。村。の。だ。う。せ。ん。甲。斐。國。の。

じ。い。ざ。り。九。日。節。古。鳥。あ。る。こ。え。ん。や。う。こ。の。積。利。

依。濃。國。の。禪。通。し。く。ら。が。の。丸。教。乃。ぬ。八。禪。久。老。

緑山

Red seal impression at the bottom right of the page.



浮國より一もの兵を命津乃もこれ今も大國
は廣瀬のくまの丹波よ山内を更柳子丸國海乃
下大原平六のりくもなれさるうせん津州防州
馬必よ之を次多んげのたあ海人あつ次命津此
くあうたうらの兵たあつさあまれじら八後
の津島相模國の乃八道にまれおつとた更人越
中にふとびやうんあつ次命割内越後津にのり
これ瑞系うとこのの法兼くうつこれ正出國わく
一の孫平が契國ふと熊坂の長平のりまあつ示
たとらうどめくのさるれ造人一と七百八十余
人時成うつさるあつとあつとれらら右之色

かりせばさうあつと人あまこのつらうと海さう
の長平と主生乃小儀をこあつとけるはそれをや
とれに事なれあつと阿魔王又乃宝苑くらあつ
の壁とかりさうさうりやうりどくくのあつとあつ
あつと系事と屋さういそれのあつとさげぬとこ
ろあつと入てもかあつとれ仕ゆ比獄のたまの蓋六
一のらりて美いさうと色二十人三十人あつとさる
さうとらひあつとわくとさうとあつとあつとさる
うとれとあつとあつとさうよのあつとあつとあつと
さめとあつとあつとさうよ仕換とてさうとあつと
さうとあつとあつとさうよ仕換とてさうとあつと

八代

四

らんごうのふいふかぢとほぢれた杖うごけぬれを
夏古傳の天貴こぶくらとこれとて大カ物てこ
りあせのちちとまのびえとてしそめて雷電
の世小悲びゆこ然坂小六小様どりぐり宛竟
の盗人さ四かへけく雷電のわらわれ跡迄の
きんことあされきあんのごとく東よはらつて
一びく松乃くげよ鬼はまらむお物候とふらあり
ういへいそとかりひま生れ小ごりぐえりの悪人
睡眠心魂とあぢううんしふ術と受取しなけ
くけとハ今もぞ林よあまらりおの縁ごとく
らそふやうにものつら鬼ぞう入新あり

これあぬらうのびとこあく花とますせとあけ
まこ正南よあつて二所ぞらわらうこそ心ひ
竹のあふこつて鬼ぞの志あをわこれと
あもらうまごまひつあふ心魂を極の術と
いふへりてあほもあつて極をせりわニケ処
よふたがひあふこあつて時分とそよあれといふ
新よ一万余人乃大カ物あつて八丈比獄乃あけ
のあつて二百二十六七とひとらものこひぬと
らり雷ぞんの神道といあふいふあふあつて
ふ心障竜寺乃跡のあありよとびとてこ
ふ心づららよ心づららとて心障

夏古傳



これと傳へ。浮竜さりの東の山麓。二万の穴の
戸をて。いそことく。汗をかき。いそとけり。
いそよ。いそんで。うらをふ。いそ。梵天帝。四の天
ま。とら。め。あ。て。け。り。天の。四の。神守。ま。か
ま。は。あ。ら。ひ。あ。の。真。途。か。り。て。い。こ。の。編。あ。め。
神の守。護。の。に。佛。の。名。利。の。東。方。ふ。び。び。ん。や。西
方。ふ。え。い。く。南。方。ふ。き。ん。ど。り。や。や。北。方。ふ。え。い。
な。し。や。中。央。ふ。大。日。大。聖。木。動。明。王。の。利。銀。の。光
と。う。け。火。端。と。く。り。い。ぬ。へ。く。あ。ら。り。と。と。
う。ら。け。り。か。び。ふ。ま。の。い。や。り。ま。の。矢。の。矢。れ。祿。ま。い。が
ま。金。貴。相。ま。し。う。ら。か。ひ。ま。較。り。の。信。く。量。く。

あわ。地。ふ。人。と。ふ。細。と。り。ぬ。い。か。り。ま。り

才九二 磁物具

大。御。軍。又。集。會。あ。ら。い。ま。ご。ま。り。の。と。が。ら。ん。今。く
の。詮。を。か。り。その。ま。た。ま。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏
御。系。そ。れ。よ。あ。け。る。ま。ご。ま。り。と。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の
ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の
い。今。遠。い。あ。れ。そ。も。お。か。ら。れ。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の
も。見。よ。と。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の
と。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の
ひ。ら。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の
ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の。ま。ご。ま。り。の

男のこも肝要なれ孫ぐもくハ難矣すむおとこを
おひまきおちこころせささこののたわこれかどか
らこいこりのめは何事とせさみんらうも教万んあ
よめさの一日二日つらふいでらぬぞ。いんた
いさやせりてささる。法細くうんれとくもさ
ふと成るわ。淫とかや。引とけづり矢とてた
刀とれとささ。さやと。港乃あけづり長刀
こんぶやとわり柄とまじ。ことわひ。わつとぬ
うたなうわ。とらひ。汗とかぐ。いあつとけ
く。敷と日よつりくるを。ねよ。敷日三日。さ
らふ。さ刀。さ。拾なを。さ。さ。ら。や。の。さ。ひ。ほ。り。

か。徳。乃。さ。が。り。ひ。の。ま。い。で。う。も。何。は。は。こ。ふ
神。夏。や。う。ら。か。わ。せ。め。の。く。そ。く。の。中。よ。ま。や。こ
日。系。の。坊。つ。よ。赤。井。刑。ア。ち。文。と。つ。よ。の。あ。り。ぞ。の
子。よ。龜。菊。丸。と。十。日。み。か。何。の。も。さ。さ。さ。具
足。乃。も。傳。し。て。わ。り。け。る。が。父。よ。さ。ひ。け。る。を
か。と。と。と。何。と。さ。た。つ。あ。い。う。か。何。い。さ。れ。ぞ。と。は
わ。ら。あ。わ。こ。こ。ん。て。い。ひ。く。ら。い。む。し。非。文。皇。后。是。を
還。治。乃。い。あ。ま。ん。ら。と。く。あ。む。む。さ。さ。あ。た。り。胎
内。の。子。や。ご。せ。あ。あ。これ。と。い。ち。ま。す。よ。あ。が。く。め
さ。れ。あ。白。布。あ。く。以。服。と。ま。う。せ。あ。あ。さ。何。あ。ん。ら
く。と。還。治。あ。ぞ。の。ら。以。子。誕。生。有。分。無。非。天



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

あわらしてせぬぐなくいんかーわごとしかなんか
らなとくみんあに身がせむいそとくもくもた
あてあつせぬぐいんかそいそくひんか

才元三 馬橋之津

帝の勅定ふいれ親美ありのまゝいくらた
ふまをてふふなきていあまもいそいそい
ろい野ういんかしていのはあへいそい
りのうぐらむらむらきあへいそい
生道むらむらむらむらむらむらむらむら
改ありい舎人い舎人馬をり別當る飼馬を
下部下男よむらむら細い切珍鑲布にむらむら

こ。あひが鼻皮依あがかりがひ作の鞍籠
はちらうむらむらむらむらむらむらむら
鞍よりいむらむらむらむらむらむらむら
せ。高生たよむらむらむらむらむらむら
る。日暮いむらむらむらむらむらむらむら
い人教よあむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむら
よのむらむらむらむらむらむらむらむら
うむらむらむらむらむらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむらむらむらむらむら
あむらむらむらむらむらむらむらむらむら



ろくろくといまは、同慶城にひらきさるるの
 ちかかんせに、志やううふそののりたげさせ
 五海の流、下知てわそらうしんぞれ
 ぐし、あしひりかしてふつりひんし。志は
 平んあしひりかしてふつりひんし。志は
 田んりかんひりかしてふつりひんし。志は
 次伝く、あしひりかしてふつりひんし。志は
 とて。うらふふのりかしてふつりひんし。志は
 然し、義経のんご、神ゆかりとこのいま
 へ。帝し、清感あしひりかしてふつりひんし。志は
 毛、疎しく、ひりかしてふつりひんし。志は

に。うらふふのりかしてふつりひんし。志は
 らううらふふのりかしてふつりひんし。志は
 此時、見よ、清感あしひりかしてふつりひんし。志は
 以事、あて、あしひりかしてふつりひんし。志は
 め、此、清感あしひりかしてふつりひんし。志は
 せんらうし、あしひりかしてふつりひんし。志は
 こ、田、あしひりかしてふつりひんし。志は
 ち、あしひりかしてふつりひんし。志は
 為、の、あしひりかしてふつりひんし。志は
 不、思、あしひりかしてふつりひんし。志は
 あり、あしひりかしてふつりひんし。志は

わんづうのふ松林に清きくえるふよのそ系
 内王帝おゆし御志とつりなりしと清
 ちりてまつりし昂然にやとけつる清涼散
 そつとれとつららるる病の志とつら
 地しわつとつらるるあつとつらるる
 とつらるる地とつらるる地とつらるる
 きつらるる所平安なるとつらるる
 てみえらるるもつらるるもつらるる
 うつらるるもつらるるもつらるる
 一水の中草の中(おらるる)もつらるる
 平安あらせとつらるるもつらるる

あまふ十八葉を入磨しそれらつとつらるる
 清涼の白雲和尙の室に入て種々つらるる
 とつらるる我朝小かつらるるもつらるる
 わつらるる百ふれとつらるるもつらるる
 和尙の白雲和尙の室に入て種々つらるる
 けつらるるもつらるるもつらるる
 清涼の白雲和尙の室に入て種々つらるる
 中上けつらるるもつらるるもつらるる
 おつらるるもつらるるもつらるる
 何んゆゑ大子世界又十六位七千万歳法界
 統乃大若日ぬ日十廿日寅の二天とつらるる

わらん。古今の事夫物其集は一人法ありき
をせぬまひくべらうんやのまきと上
られも色べ凍けありやるやろりしりきん所
後づけのやま

才北に三帝法軍に法對面之事

明教法軍共かぶとの結してうたかたき
負まやこいよ腰けりまらうこいほの
色にあぶるこいよめらうかほきん海入強城
こらもめらうかほきんかほきん
鼻ありやるとぬまらうこいやうこい
寅う一天しちうこいぬまらうこい

おし率して降竜ちる糸あまの院をよし
らに寝とあふん打つりし法ひらり法
くやうこい田しこらうこい後上人と
結う。初定わりの事あふんあうこい
二あゆえに根の事と志とせゆりま
らゆらうこいあふん。夜法をれり
や。け事かこらまの事又あうこい
ひ武志とせゆりまの事とせゆりま
こらがえん。後まれの敵上人の法
の事やまの事とせゆりまの事
結う。け法とせゆりまの事とせゆりま

ふりまゝのい我君の西事ありてかゝる節に
まゝのいふのあぐらとてたそのらゆと
りうき毎らるべ何ぞされあややあめあ
まらんくやとられしむの院をあげおそれ
さぞいふらん。たものつどもや悔しむし事
て。憂ごわりわひしり。西二取の帝是
たうつとてわれしふあつりあひく。英
家にとりあられて何しあひく。くわつて
保元平治事永承久の事。世とてまゝとてり
うべざんにはあめありとされはさひていひ
かと所期とてたらん。先皇とて母のそとじ

かひにふとの院室あは後人いさゝか
まゝのり院宣れむいそ美園と。御二取
うしやうとあらんしひあれあらん。別勅宣
此業内あてとありのそとと何とていそと
障竜と障幸を院を道とて法途に出音
あそと。さうとせとて。古寺あはとそ。た
らひの宮とて。さうとそ。さああせ。毎
の障龍もそしやあれたら。いそ。さか。これ
燈立行の志。ゆりれ。ゆりれの世。さうに
ゆりあつら。さうとて。下くれりのさ。向
よ。教うむと志。ら。さうとて。さうとて。ら。あ

小豆蔵巻中

三十一



ようやくに邪心とてさへまひけり。あつしあつし
 されど丸がひはるやうとてあつしあつしあつし
 何れもふらふらとせんとあつしあつしあつし
 くは横死もさしきくなれさ。夜もあつしあつし
 いのちまひのあつしあつしあつしあつしあつし
 三帝心魂とてさへまひ。天よそのまひあつしあつし
 三帝心魂とてさへまひ。天よそのまひあつしあつし
 里のゆよあつしあつしあつしあつしあつし
 也。伊勢必麻山乃鬼祓とてあつしあつしあつし
 八つたりの回村丸利仁一方乃先みたる。信徳
 必戸隠山の鬼祓とてあつしあつしあつしあつし

八つ軍平推拵とてあつしあつしあつしあつし
 山の河天童子が例とてあつしあつしあつし
 付。飛砂乃會類悪竜の執源三任。初初
 らとてあつしあつしあつしあつしあつし
 ようやくあり。悪鬼変化のゆよあつしあつし
 こめしきよ。矢合矢初とてあつしあつしあつし
 ち教師。真那道の口。高とてあつしあつしあつし
 ち市物。同宗とてあつしあつしあつしあつし
 世よあつしあつしあつしあつしあつし
 何れもふらふらとせんとあつしあつしあつし
 あり。源義経など。あつしあつしあつしあつし

いりしつりせす。さうらく^に心^をこころ^に下^りん
三^つ重^むなるこころ^をしつりして^まあ^らむ^こころ
徳^の心^をい^てぬ^れり。降^り竜^の寺^と出^て久^しく^は法^のめ^が時^に
つ^つし^きな^る。寅^の二^に天^のも^のな^わり^た。大^にお^の法^の軍^十三^三
ふ^にか^ら西^にさ^めら^らう^げら^れる^こ人^馬の^鼻を^ひ
ひ^きり^て。先^に後^の主^の文^教部^をわ^りや^らう^こと^を
真^の友^友獄^卒切^りり^がせ^らる^こら^うこ^のれ^めな^らう^こ
ら^かく^れが^まし^めら^るこ^の軍^共こ^のは^らる^こ
ふ^十方^志ゆ^こひ^獄中^に。山^野の^と表^をあ^らは^しめ^ら
し^ける^こ。その^とれ^鬼を^斬と^まし^めら^るこ^のは^らる^こ
し^りを^と。つ^つり^るこ^のめ^あら^るこ^の鬼^三十^三鬼^三十^三鬼

し^りく^ふも^しり^めが^れる^こも^ゆこ^のな^らう^こ
う^行前^へと^らぬ^こら^うこ^のに^{。つ}つ^りる^この^けい^あり^こな^ら
下^りも^われ^らう^らく^あげ^らる^こら^うこ^のれ^らる^こ
こ^の表^をあ^らは^しめ^らる^こ。甲^のり^りの^とま^らは^るこ^の澄^の
こ^のこ^の比^ひの^ひり^りの^とま^らは^るこ^のけ^いあ^りる^こ
こ^のと^まら^はる^この^けい^あり^るこ^の同^の魔^まま^ま
へ^御進^進り^もれ^らる^この^けい^あり^るこ^のな^らう^こ
こ^のと^まら^はる^この^けい^あり^るこ^の同^の魔^まま^ま
な^らう^こ。後^の路^をあ^らは^しめ^らる^この^けい^あり^るこ^のな^らう^こ
う^なら^うこ^の比^ひの^ひり^りの^とま^らは^るこ^のけ^いあ^りる^こ
よ^うな^らう^この^けい^あり^るこ^の同^の魔^まま^ま

罪人いふやうにせむかたむかすかたむかす
 かに餘念あまのりねんもなほなれど、はなはだ目もく
 らびの中、何とも後をよりのまへへ、いふ
 つもごとし。罪人ぞ、いふまじは、いふまじは、いふ
 かりに、やうのまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 て、いふまじは、後悔も、いふまじは、いふまじは、いふ
 まま、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 むら、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 う、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 ぬ、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 る、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ

花天いづれ、さういふても、いふまじは、いふまじは、いふ
 こころなり。昔大唐小函谷の関とてあり。孟嘗もうそう
 君といふ人の、弟ハ公孫こうそんなり。秦ハ昭王しやうわうは、けしき
 家あり、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 じ、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 くれる夜なり。天ト小の、いふまじは、いふまじは、いふ
 うれと服と、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 ぬとあり。弟の関ハ、いふまじは、いふまじは、いふ
 へ、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 孫と、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ
 ぬ、いふまじは、いふまじは、いふまじは、いふ

安達公之今なほ徳川の文藝境比の中は概
八國津ありとも。多小ありぬ斗略ありとも。わ
ゆる小ありして。油のなほ鬼のたぐせりなり。わ

才元又 軍勢賦

波のよりの田村の軍利にふく。白濁のきりけなり。お
呪云書し。ゆきとて。あけのうぶと八十三万八
千餘騎と。率し。高麗の山。西川
より。乃とも。業の松系。深と。向。横津守頼光
々。仏朋の。よろの。と。毘沙門小。よと。比。危が
しら。八。ふと。成。を。深。乃。弓。持。天。乃。速。日。征。矢
と。真。安。徳。が。お。ゆ。二。尺。七。寸。八。太。刀。を。た。お。動。業。を。

し。馬。り。お。鞍。と。る。也。ゆ。り。の。り。志。馬。从。鞍。四
流。後。も。粒。資。だ。の。村。實。國。丹。は。る。保。昌。貞。光。未。茂
公。持。一。人。未。名。法。法。与。仲。政。と。初。と。て。電。之。れ。若。ふ
入。十。七。万。六。千。余。騎。を。又。れ。而。西。の。り。い。し。は。流。分
と。向。源。三。位。を。り。ま。く。嬌。子。を。馬。改。ま。さ。け。お。仲。徳
兼。徳。宗。頼。朝。の。肥。と。さ。た。う。と。て。甲。に。十。二。万。二
千。余。騎。を。貝。山。と。て。籠。り。味。と。て。備。王。八。海。邪
南。口。八。濱。門。と。目。下。小。入。り。あり。ひ。之。り。丸。而。別。友
我。信。が。と。人。が。名。山。先。く。舉。と。落。え。ん。と。く。を。留。の
う。つ。ひ。此。本。の。と。而。重。が。め。の。六。而。音。流。は。分
と。う。我。盡。後。田。の。友。を。盡。政。と。う。乃。是。十。而。兼。房。強



水石庵者

康雅俊の次子伸を義比と云ふ直也。田松浦
山原信方と初とて上下との勢八十三万七千
余。義方被よつてうんで。多々成まらうく
とくうの家やかれ境より小川飛龍門へ八段と云
義家嫡子六条の判官為義二男弟力也。生義
賢た徳の尉於賢掃部助於仲六郎為家。七郎為
徳。而の八郎為朝九郎為仲。佐治もいぬ。あ
る。つと侍大納言。出ぬんを先徳多田義人
の信。六郎冠義清。かゝる。山田。山田。八郎信
ち。八郎。而。う。ゆ。こ。ひ。と。その。勢。入。十八。万。六。千。余。義
多。人。田。松。浦。の。い。ぬ。い。よ。あ。る。門。を。深。河。監。と。い。ふ。路。を。

それより。は。よ。と。ま。て。人。殺。とも。ま。ら。う。子。伝。夷。也。
軍。形。期。を。白。と。と。と。う。あ。げ。合。才。公。依。八。冠。者。
帝。義。家。は。も。義。門。安。野。源。師。全。成。よ。り。の。公。心。
義。因。た。大。納。言。家。太。大。良。実。朝。あ。い。ま。う。人。と。た。
小。条。八。郎。師。を。た。ま。す。その。こ。は。ま。小。川。郎。判。官。比。企
大。河。内。の。口。良。也。け。か。持。也。去。依。序。墨。法。西。元
義。家。の。子。也。田。多。市。う。田。海。も。八。郎。八。郎。は。
河。村。房。我。の。大。郎。依。も。本。入。郎。成。流。山。名。は。後。義。家
と。依。り。や。片。忠。乃。者。流。つ。依。ら。し。安。田。も。う。り。と。と。
大。内。の。大。良。い。う。田。代。の。冠。者。の。ぶ。け。か。川。越。と。
良。重。頼。同。重。房。梶。原。年。亮。系。付。嫡。子。依。大。系。也。

笑も道にこれけるかよふ比獄のはやちり
 見びひかき痛まあうさうかひ女とくこれ
 女獄卒のよらなりまうくかひとて
 死すとしてすぐはあま入席の迹てあり
 けりうききめけも今ハのうき姿の
 けりうききめけも今ハのうき姿の
 又もきそぬどはうききめけも今ハのうき姿の
 女獄卒のよらなりまうくかひとて
 死すとしてすぐはあま入席の迹てあり
 けりうききめけも今ハのうき姿の
 けりうききめけも今ハのうき姿の

げなり見どてあまきりだよとけりげ測と
 のぞけごあなはきききききききききき
 されそていふ神さくあらうりきん
 けりうききめけも今ハのうき姿の
 死すとしてすぐはあま入席の迹てあり
 けりうききめけも今ハのうき姿の
 又もきそぬどはうききめけも今ハのうき姿の
 女獄卒のよらなりまうくかひとて
 死すとしてすぐはあま入席の迹てあり
 けりうききめけも今ハのうき姿の
 けりうききめけも今ハのうき姿の

倭と朝のしとまゝ。意無^いらるとまひなれらば
くふのいふから^わ分^わ満^まるの何^なとあそとまひの
無^い味^{あじ}よりまひか^かも^もた^たり^りく^くま^まれ^れし^し邪^{よこしま}母^はか^か何^なと
よ^よく^くび^びと^とま^まれ^れ人^{ひと}も^もた^たり^りや^やな^なり

小夜流巻之中又終

